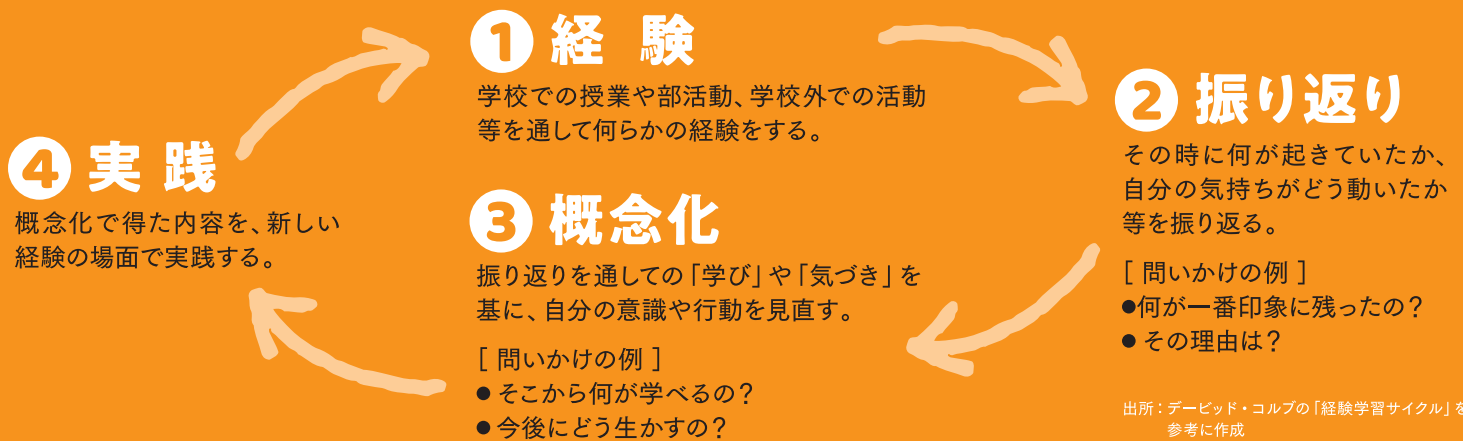


成長スル
振り返リ
ツキ返リ
振り返リ

「生徒の成長」×「振り返り」

経験したことを自身の成長につなげるために、「振り返り」は欠かせない要素の一つといわれています。個人での振り返りも効果的ですが、人と対話しながら振り返ることでより多くの気づきを得ることができます。以下に記載した振り返りのサイクルは、学校内に限らず、普段の生活の中で生徒に接するみなさま（保護者、地域の方々等）も活用できますので、ぜひお試しください。



「アオハル52」は鳥根県江津市にある県立学校3校と一緒に学校生活を楽しみ、学んでいく様子をお届けする情報誌です。昨年度から江津高校、江津工業高校、江津清和養護学校の3校で“まちで学ぶ”を考えるチーム、“GO▶GOTSUコンソーシアム”が

立ち上がり、それぞれの特徴を活かしたプロジェクトを行っています。学校同士はもちろん、地域、企業と一緒にさまざまな「学び」「楽しみ」を作っていきたいと思っています。この情報誌では、そういった連携の様子をお届けしていきます。

江津高校
×
SDGs



SDGsワークショップ

2年生(5月)と3年生(7月)と教員(8月)を対象として、SDGsワークショップが、江津高校で地域教育コーディネーターとしてご活躍の齋ヶ原さんのファシリテートにより行われました。ゲームを通じて世界の実情を知ることができました。生活の中でワークショップを振り返りながらSDGsが達成できるように意識をしていきたいです。

江津高校
×
地域



2年生KAWARAプロジェクト (総合的な探究の時間)

2年生は地域や社会の課題をテーマにした学習を行っています。7月には地域の方を招きプロジェクトの発表を行い、今後の活動へのアドバイスをいただきました。今年取り上げているテーマはゴミ問題・高齢者・ペットなどの動物・歴史観光・街灯・農業などです。今後、市内の各所に出かけて活動を行う予定にしています。



江津工業高校
×
地元企業



学びのアウトプット

建築・電気科3年電気コースの課題研究「電ボラ52」班は有福温泉町でカフェとしてオープンする予定の古民家を改装する工事を行っています。有限会社田中電設に協力をいただき、工事概要や作業内容の打合せから電気工事の実践に取り組んでいます。本物の現場作業にワクワクと緊張を感じています。自分たちの仕事が形として残ることに喜びを感じつつ、誠実・正確に作業を進めています。

江津工業高校
×
小学生



小学生が工業高校を体験

7月と8月の計4日、サマースクール「とうもろこし」の小学生の皆さんが、ひまわりアイスクリームと磁石にくっつくスライム製作、流しそうめん江津工業版とレーザー加工機で工作(コースター、ゴム印の製作)を体験しました。レーザー加工機体験では、小学校でも始まるSTEAM教育(S:科学、T:技術、E:工学、A:アート、M:数学の5つの領域)の要素が全て入っています。体験した小学生の皆さんは、光で彫刻できたことに驚きと楽しさを感じていました。探究力・創造力・表現力が芽ばえるといいですね!

江津清和
養護学校

清和あれこれ

「のぞみ福祉作業所との交流」

前回の通信で本校の東日本大震災による被災地への復興支援活動、「福島ひまわり里親プロジェクト」を紹介しました。その他に、「ひまわりプロジェクト」の前年2014年から、宮城県南三陸町にある「のぞみ福祉作業所」の復興支援にも取り組んでいます。

障がいのある方々が働くのぞみ福祉作業所は、2011年の東日本大震災で津波の被害に遭い、施設が流されてしまいました。その後、2019年には新しい施設が完成しています。のぞみ福祉作業所では牛乳パックを再利用して、はがき、しおり、メッセージカード等の紙すき製品を製造しています。この製品の売り上げが施設の収入になり、働いている方々の給料になります。

江津清和養護学校では、紙すき製品の原料となる牛乳パックの回収を校内に呼びかけ、集まった牛乳パックをのぞみ福祉作業所へ送っています。この活動はすっかり定着していて、児童生徒や保護者さんたちからたくさんの牛乳パックが集まってきます。児童生徒会活動で「のぞみグループ」になった児童生徒たちは、集まってきた牛乳パックの形を整えたり、汚れがあればきれいにとり除いたりして、のぞみ福祉作業所へ発送しています。また、手紙を送ったり、年に数回リモートでつないだりして、のぞみ作業所の方々と交流し、被災地支援についての理解を深めています。



学校に集まってきた牛乳パック



のぞみ福祉作業所(宮城県南三陸町)



紙すき作業の様子と製品

